西伊敷小学校

令和６年度第１回学校運営協議会議事録

１　期　日　　令和６年５月２８日（火）　１０：００～１１：３０

２　場　所　　西伊敷小学校　校長室

３　出席者　　福徳　清和，藤﨑　剛，栫　和嗣，村山　雅子，大石　博子，
　　廣司　正良，有村かおり

４　会順及び協議題
(1)　開会のことば及び学校長あいさつ
(2)　自己紹介及び辞令交付
(3)　協議
　ア　学校運営協議会について
　イ　年間活動計画について
　ウ　令和６年度学校経営について
　エ　意見交換
　オ　その他
(4)　閉会のことば

５　協議の内容や意見等
○　「地域学校協働活動」の点から述べると，西伊敷小校区においてはＰＴＡ・地域・関係団体の連携に対する気運があるように感じる。
　「協働」が鹿児島市で叫ばれて久しいが，学校運営協議会と地域学校協働活動が結びついていけるとよい。
○　児童が授業で使用するタブレットにある「ロイロノート」は，とても有効である。従来の授業ではなかなか難しかった子ども同士の考え等の共有が容易にできる。授業でおおいに活用し，児童の学力向上や主体的な学びにつなげてほしい。
○　一校一改革にある「ワンストップ語先後礼」が児童におおよそ身に付いているのがすばらしい。特に低学年は，立ち止まってしっかりあいさつができている。小学校入学時から指導をしていることが，習慣化につながっていると感じる。
○　学校教育目標にある「コミュニケーション力」の育成は，とても大切ではないか。ある大学の先生によると，大学生のコミュニケーション力が大きく不足していると話されていた。他者とコミュニケーションを図るのではなく，一人でスマートフォンばかり触っているようだ。
　コミュニケーションの第一歩は，「あいさつ」だと思う。先程の意見で

も挙がったように，是非「あいさつ」の習慣化をより図ってほしい。また，ＩＣＴ機器も活用しながら，コミュニケーション力を高めていってほしい。

○　不登校や登校渋りのある児童へは，初動が大切であると思われる。その背景を探り，早期対応を行い，解決につなげてほしい。

○　高校の状況を聞くと，スクールカウンセラーとの面談が２カ月先まで予約で埋まっているとのことである。ただ，小・中学校では，高校ほど活用されていない現状のようである。不登校や登校渋りの児童生徒や保護者は，登校できていないことに負い目を感じ，学校の敷居が高すぎると感じているとも思われる。西伊敷福祉館のような場所で，面談等ができるとよいのではないだろうか。

○　令和５年度かごしま国体におけるのぼり旗を，西伊敷小の児童が作成し，それが会場に飾られているのを見たとき，立派な出来栄えで感動した。地域学校協働活動の一環として，地域の各団体と協働し，児童ののぼり旗を地域に配置し，活性化につなげてみるのもよいのではないか。